

令和4年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

佐賀市立小中一貫校 三瀬校 中学部

4月に文部科学省による学力・学習状況調査を実施しました。全国的な義務教育の機会均等と水準向上のため、児童生徒の学力や学習の状況を把握・分析し教育の改善を図るとともに、児童生徒一人一人の学習改善や学習意欲の向上につなげることを目的としているものです。

結果を基に、本校児童の学力の傾向を分析し、学力向上について対応策をまとめました。その概要についてお知らせいたします。

■ 調査期日

令和4年4月19日(火)

■ 調査の対象学年

中学校3年生

■ 調査の内容

(1) 教科に関する調査(国語、数学、理科)

- ・身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

(2) 生活習慣や学習環境に関する質問紙調査

児童生徒に対する調査	学校に対する調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面に関する調査 (例)国語・数学・理科への興味・関心、授業内容の理解度、読書時間、勉強時間の状況など	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査 (例)授業の改善に関する取組、指導方法の工夫、学校運営に関する取組、家庭・地域との連携の状況など

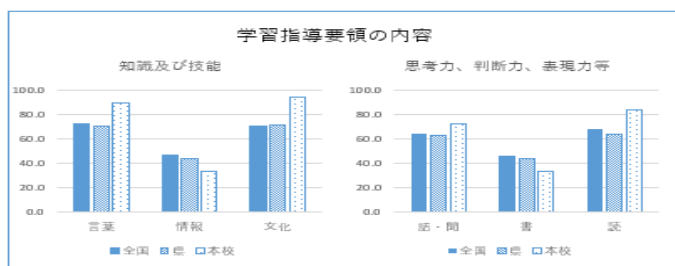
■ 調査結果及び考察について

全国学力・学習状況調査は小学6年生・中学3年生と限られた学年が対象であり、教科は国語と算数・数学、理科に限られています。さらに、出題は各教科の限られた分野(問題)です。したがって、この調査によって測定できるのは、「学力の特定の一部」であり「学校教育活動の一側面」であることをご了解の上、ご覧ください。

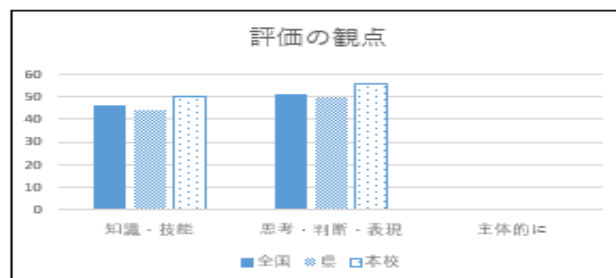
■ 調査結果及び考察

1 国語 (中3)

(1) 全国学力・学習状況調査の結果 (県・全国正答率との比較)



	知識及び技能			思考力、判断力、表現力等		
	言葉	情報	文化	話・聞	書	読
全国	72.2	46.5	70.2	63.9	46.5	67.9
県	70.1	44.1	71.0	63.1	44.1	64.1
本校	88.9	33.3	94.4	72.2	33.3	83.3



	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に
全国	46.1	51	
県	44.3	49.7	
本校	50	56	

学習指導要領の内容別では、「情報の扱い方」及び「書くこと」に関する設問でのみ全国・県平均に及ばないが、その他の内容では平均を大きく上回っている。授業で、話し合い活動や「学び合い」の手法を随時取り入れながら、「言葉の使い方」や「文章の読み取り方」について細かく指導してきた成果が伺える。また、観点別でも、同様の傾向が現れている。さらに、無回答率が全ての設問において0%であることから、問題に真摯に取り組む、「記述式」の設問であっても最後まで丁寧に取り組む姿勢が身に付いていることがわかる。

(2) 成果と課題

知識及び技能 (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項

「助動詞の働きの理解と文中での意図的な使用」「文脈に応じた漢字の使用」など、言葉の使い方に関する知識・技能についてはしっかりと身につけている。さらに全国的には課題のあった「表現技法についての理解」も本校では正答率100%であった。今後も単元の中での細かな指導を継続していく必要がある。

知識及び技能 (2) 情報の扱い方に関する事項

全ての設問の中で、正答率が唯一全国を下回っていた。引用の仕方や出典の示し方について理解し、書く活動の中で使うことに課題がある。授業の中で自分の考えを書いたり、書き方のステップを意識した条件作文の練習に取り組んだりしているが、今後は、現在の取り組みを継続するとともに、さらに、自分の考えを書き出す際に、適切な根拠を示しながら説得力を高めていくスキルを身につけられるような指導をしていく必要がある。

知識及び技能 (3) 我が国の言語文化に関する事項

全ての設問での正答率が全国平均を大きく上回っている。今後も日常生活に役立つ、書写に関する知識技能の定着を図ることが大切である。

思考力、判断力、表現力等 A 話すこと・聞くこと

全ての設問での正答率が全国平均を上回っている。日頃からスピーチ活動を多く取り入れ、表現を工夫しながら話すことに取り組んでいる成果が見える。今後はさらに、目的意識・相手意識を持って表現を工夫していくことを意識させていく必要がある。

思考力、判断力、表現力等 B 書くこと

自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にするために必要な情報を資料から適切に引用して書くことに課題がある。

思考力、判断力、表現力等 C 読むこと

各設問で正答率は八割を超えて全国平均を大きく上回っている。多様な意見・考えを交流して思考を深めていく言語活動を大切にしながら、今後も、描写を元に文学作品を丁寧に読み取っていくことを疎かにしないように心がける必要がある。

(3) 学力向上のための取り組み

【学校では】

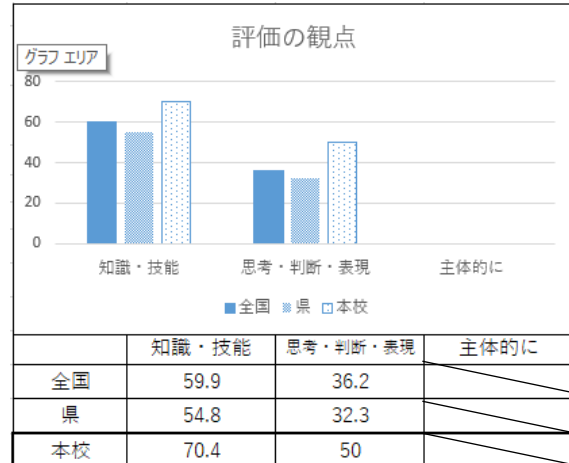
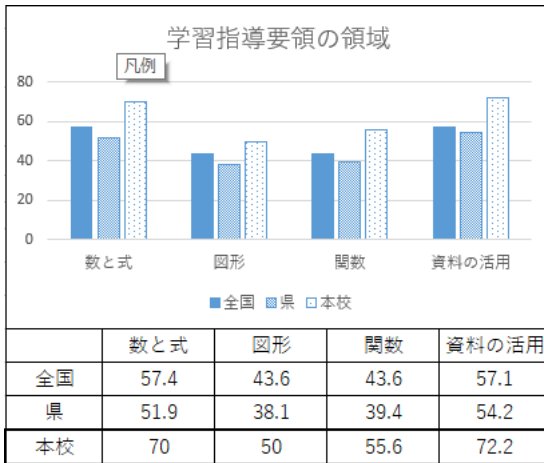
- 朝読書やホンホンさんの読み語り、新聞コラムの活用、「ブックトーク」等を通して読書習慣の定着を図り、語彙力を伸ばします。
- 授業では、資料を活用した表現活動や、表現の工夫に着目した読み取り、自分の考えを持たせる指導に力をいれます。
- 毎日の漢字練習とともに、漢字テスト・語彙テストを定期的実施し、文脈に即して、適切に語句を読み書きする力の定着を図ります。

【家庭では】

- 幅広いジャンルの本に親しませるために、家庭での会話の話題にお薦めの本や話題の本の紹介などを交えてください。(図鑑や辞書、料理の本や伝記、絵本や昔話、小説や雑誌、美術書、写真集など) また、新聞やニュースなどの話題について、自分の考えや意見を述べさせるような場を設けてみてください。
- 家庭学習で毎日課題を出しています。漢字プリントが丁寧に書かれているか、時折目を通してください。

2 数学 (中3)

(1) 全国学力・学習状況調査の結果 (県・全国正答率との比較)



学習指導要領の内容・領域別において全国・県との比較を見ると、4つの領域すべてで全国・県平均を上回っている。また、評価の観点別でも全国・県平均を上回った。問題形式ごとに見ても、すべての項目で、全国や県の平均を上回っており、特に、理由や方法を記述する問題の正答率が全国平均を23.8ポイントと大きく上回っていた。無解答率の割合も低く、最後まで諦めずに解こうとする意欲がうかがえる。

(2) 成果と課題

数と式

・ほとんどの問題で、全国平均を上回っており、基本の定着が見られるが、結論が成り立つための前提を考え、新たな事柄を見だし、説明することに課題が見られた。

図形

・昨年度の課題であった、反例の意味を理解しその説明をすることについては、全国平均を上回ってはいるものの、正答率は50%で、引き続き重点的に指導すべき課題であるといえる。

関数

・表から式を求めたり、式やグラフを用いて問題解決の方法を説明したりする問題は全国平均を上回った。表、式、グラフの相互に関連付けながら問題解決ができる力がついてきたと考えられる。

資料の活用

・もっとも正答率が高かった分野であり、全国平均と比較しても、理解が進んでいる分野であった。特に確率を求める問題は全員が正答することができていた。

(3) 学力向上のための取り組み

【学校では】

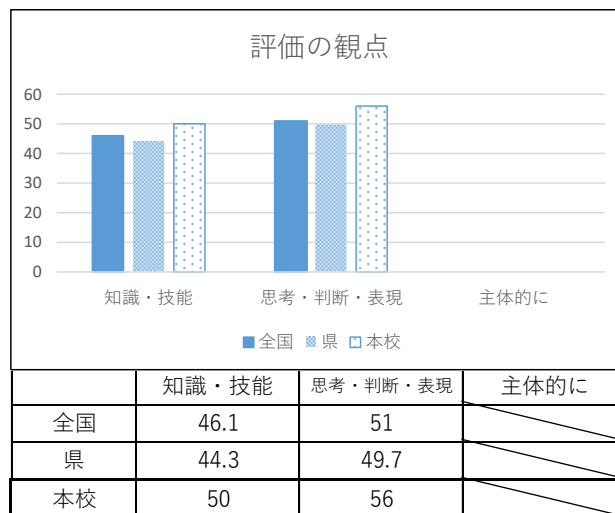
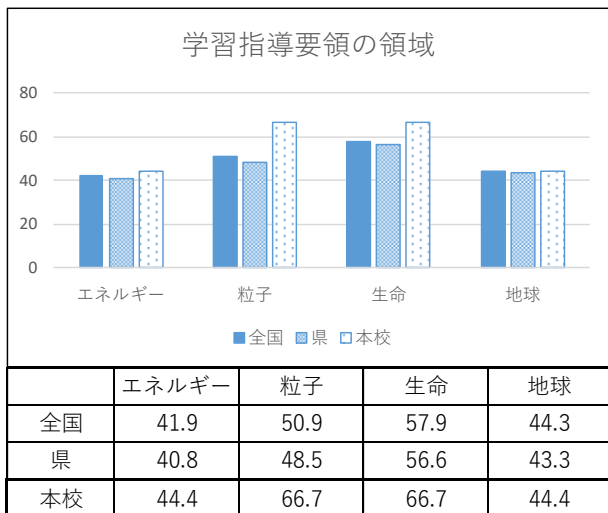
- 授業では、学び合い活動を取り入れ、成り立つ事柄やその理由、また方法・手順の説明をさせるなど、目的を明確にして説明をさせるようにし、自分の考えを伝える活動のレベルアップを図ります。
- すくすくテストを隔週で実施し、既習事項の復習と、基礎的・基本的な計算技能や知識・理解に関する問題の確実な定着を図ります。

【ご家庭では】

- 家庭学習では宿題だけではなく、復習(1・2年生の内容を含む)を中心とした学習をするように声をかけてください。また、予習的な課題にも挑戦し、授業における理解を深めるようにしていきましょう。
- 数学の有用性を実感することや数学への興味をもつには、身の回りの事柄や社会の事象を、数学を使って考えたりすること経験をさせるのが一番です。ぜひ、お子さんとの会話の話題にしてみましょう。

3 理科 (中3)

(1) 全国学力・学習状況調査の結果 (県・全国正答率との比較)



学習指導要領の内容・領域別において全国・県との比較を見ると、4つの領域すべてで全国・県平均を上回っている。また、評価の観点別でも全国・県平均を上回った。問題形式ごとに見ても、すべての項目で、全国や県の平均を上回っており、特に、「粒子」と「生命」を柱とする領域で平均を大きく上回っていた。

(2) 成果と課題

「エネルギー」を柱とする領域

・日常生活の中で、物体が静電気を帯びる現象を選択する問題と、おもりに働く重力とつり合う力の矢印を選択し、その力について説明をする問題の平均が全国平均を下回っていた。ともに、知識・技能を問う問題であったことより、エネルギーの知識を深める学習を行っていききたい。

「粒子」を柱とする領域

・化学変化や化学反応式を問う問題では全国平均を大きく上回っていた。実験・考察を多く行い、科学的に探究する力が高まっていると考えられる。液体が気体に変化する状態変化による熱の出入りを問う問題で全国平均を下回っていた。身近な事象をもとに、探究につながる授業を積極的に行っていききたい。

「生命」を柱とする領域

・ほとんどの問題で全国平均を大きく上回っていた。生物の共通点を分析・解釈する問題や、探究の方法を検討する問題などができており、日常的に実験や観察結果などを表にまとめたり、その結果を分析することが身につけていると考えられる。

「地球」を柱とする領域

・天気図からの分析に課題がみられる。実際に気象観測を行ったり、さまざまな気象データから分析を行う学習を取り入れ、気象に関する理解を深めていきたい。

(3) 学力向上のための取り組み

【学校では】

- 授業では、身近な事象をもとに、なぜそのような現象が起こるのか科学的に説明することができる学習を行っていきます。
- 実験や観察を積極的に行い、科学的に探究する習慣を身に付けることを目指します。

【ご家庭では】

- なぜだろうと疑問を持った時に一緒に調べてみようかなど、ともに科学的な疑問を楽しく探究していただけるとありがたいです。

4 生活習慣や学習習慣に関する調査

(1) 結果

《生活習慣について》

調査項目	本校 %	全国平均 %
毎日、同じくらいの時刻に起きている	83.4	92.2
毎日、同じくらいの時刻に寝ている	66.3	79.9
朝食を毎日食べていますか	100	91.9
携帯電話などの使い方について、家の人との約束がある	66.3	81.8
平日30分以上読書をしている	16.7	27.3
地域や社会をよくするために何をすべきか考える	66.6	40.7

1日の原動力となる朝食の喫食率は100%であり、このまま継続させていきたい。就寝時間のばらつきが目立っており、それが起床時間のばらつきにつながっていると考えられる。特に携帯電話の利用について約束がない場合に、それが休日前の生活のリズムが崩れる原因となっていることが予想される。

本を読む時間が全国と比べて短い。文章を読む力は学習の根幹であり、社会を知るうえで欠かすことのできない力である。図書館を利用する生徒は多いので、本を読むことに抵抗を感じているわけではないと考えられるので、日常の中で本や新聞を読むことの重要性については話をしていきたい。

地域社会に貢献したいという意識は全国平均を大きく上回っている。総合的な学習の時間における地域について知り、地域を活性化させるためにできることを考えさせる活動が一定の効果を出していると考えられる。より効果的になるよう考えながら、取り組みを継続させていきたい。

《家庭学習の様子》

調査の項目	本校%	全国平均 %
家で、自分で計画を立てて勉強している（どちらかといえばしているも含む）	50	58.5
平日2時間以上勉強している	33.4	35.2
平日1～2時間勉強している	33.3	34.3
平日0～1時間勉強している	33.3	25.5
平日2時間以上ゲームをする。（テレビゲーム、携帯電話など）	50	50.3

学習時間について、全国と比べて短いことがわかった。また、計画的に学習計画を立てて勉強している生徒も全国平均を下回っており、宿題以外の学習が実施できていないことが表れていると考えられる。家庭学習では、宿題に加え、授業の予習・復習をする習慣を身に付け、内容の質を改善する必要がある。

また、平日2時間以上ゲームをする生徒が半数となっており、それが学習時間の短さにつながっていることも予想される。

(2) 改善に向けての取り組み

【学校では】

- J ノート（自主学习）では、各教科担任より内容を精選し、アドバイスを行っていきます。また、学習時間を確保するためにも、本人の取り組みや頑張りを掲示物で可視化し、学習へのやる気の向上に繋がります。特にテスト前には、家庭学習計画表を立てさせ、計画的な学習ができるようにアドバイスをを行い、家庭との連携を図ります。
- 週に2回の朝読書の推奨、読書ボランティア（ホンホンさん）による読み聞かせの月1回の実施など、読書の機会を増やすための工夫を今年度も継続して実施していきます。

【ご家庭では】

- 家庭学習では、宿題だけに終わらないように、授業の予習や復習（1,2年生の内容も含む）をするなど、宿題プラス1を意識させ、声掛けや励ましを行ってほしいと思います。
- 情報機器の取り扱いについては、ぜひ利用するにあたってのご家庭での約束事を決めていただき、適切な利用ができているかの見守りをよろしくお願いたします。